

はあもにい 第 17 号

・昭和 48 年 1 月 13 日 第 3 種郵便物認可
 ・HSK 通巻 417 号
 ・発行 2006 年 12 月 10 日
 ・発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 (HSK) 細川 久美子
 〒063 札幌市西区八軒 8 条東 5 丁目 4-18
 ・定価 110 円
 ・編集 はあもにい編集委員会 (0144) 87-3800



どさんこ1000人緊急集会

緊急アピール文

- 1 障がい児および障がい児施設に対する、北海道独自の支援策を!!
- 2 低所得者層の定率負担に対する、北海道独自の負担軽減策を!!
- 3 グループホーム・ケアホームで安心して暮らすための支援策を!!
- 4 通所施設などの日中活動サービス・雇用促進に対する支援策を!!
- 5 障がい程度区分認定の速やかな見直しを!!
- 6 市町村事業が円滑に進められるための支援策を!!
- 7 厚生労働省に対し、北海道知事名にて課題解決のための要望書の提出を!!

以上北海道に強く要望いたします。

平成 18 年 10 月 20 日

社団法人 北海道知的障がい福祉協会

木枯らし吹く秋空と障がい福祉

北海道知的障がい福祉協会主催の「異議あり!! 障害者自立支援法どさんこ1000人緊急集会」が10月20日、木枯らし吹く秋空の下札幌大通り公園で開かれました。

集会には予定を遥かに超える約2000人が全道各地から参加し、障がい者本人やその家族、施設職員などの代表者がそれぞれ同法施行後の「自己負担増による不安」、「同法改正の必要性」を道民の皆さん一人ひとりに理解してもらおうと現在自分たちが置かれている厳しい現状を、実態を踏まえて熱く訴えました。

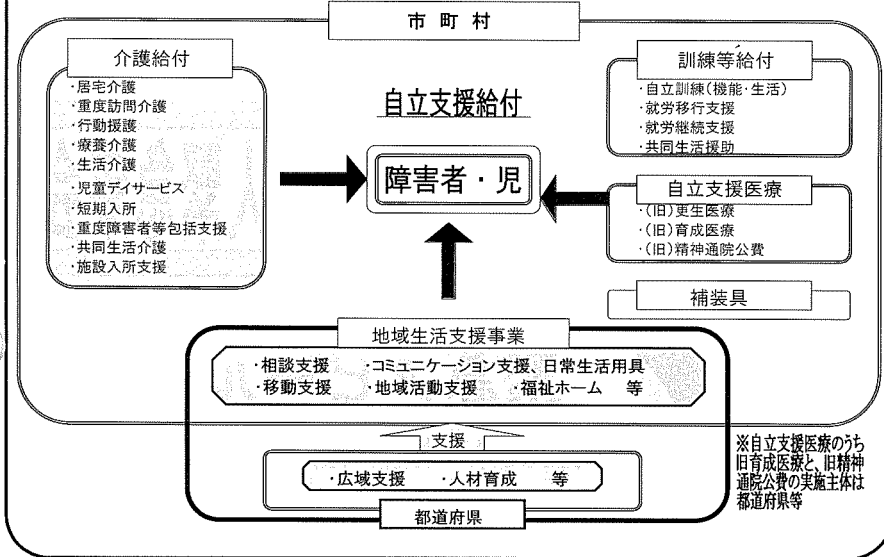
このほか、集会において採択された上記の「緊急アピール文(要望書)」を代表者5名が閉会后、道庁へ赴き、提出することになりました。

障がい福祉の後退を危惧されないために、冬の季節を前にした今、すべての人に望まれる制度へと「衣替えする」ことを願います。

平成 18 年 10 月より障害福祉サービス事業者の指定を受け “地域生活支援センターあぷろ”は共同生活介護・援助の 一体型サービス事業所として再スタートを切りました。

新しい事業体系等について

(総合的な自立支援システムの構築)



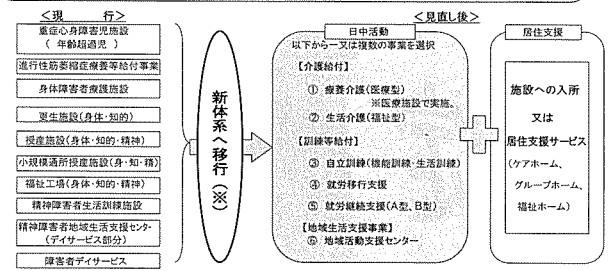
『地域で暮らす』を前提に、「障がい者自立支援法」は本年4月、利用料の一割負担や日額制などの一部が実施され、10月からは障害程度区分、新事業体系への移行（概ね5年の経過措置期間内に移行）、障がい福祉計画などが本格的に実施されました。

また、厚生労働省は事業者が新しい事業体系に円滑に移行できるよう、ケアホームの夜間支援体制の強化、生活介護・施設入所の報酬算定要件の緩和、就労継続支援事業（A型・B型）の要件の緩和などを行いました。

利用者本位のサービス体系へ再編

○ 障害者の状態やニーズに応じた適切な支援が効率的に行なわれるよう、障害種別ごとに分立した33種類の既存施設・事業体系を、6つの日中活動に再編。

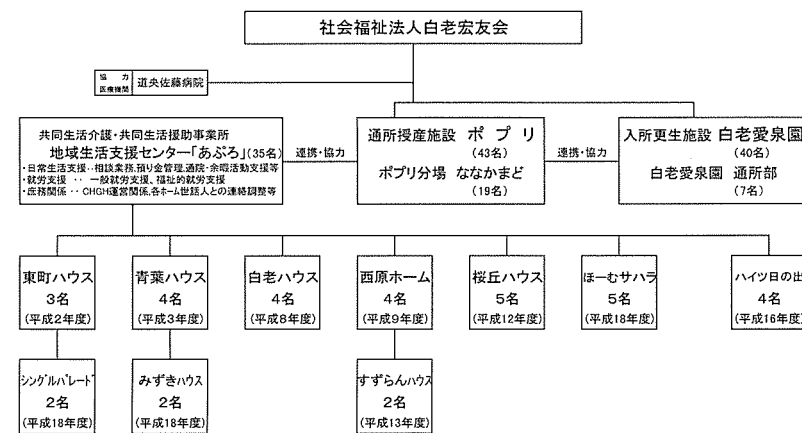
- ・「地域生活支援」、「就労支援」といった新たな課題に対応するため、新しい事業を制度化。
- ・24時間を通じた施設での生活から、地域と交わる暮らしへ（日中活動の場と生活の場の分離）。
- ・入所期間の長期化など、本来の施設機能と利用者の実態の乖離を解消。このため、一人ひとりの利用者に対し、身近なところで効果的・効率的にサービスを提供できる仕組みを構築。



当法人は平成18年9月14日付けの指定障がい者福祉サービス事業者の指定申請について、障がい者自立支援法第36条の規定による法第29条第1項に基づき、指定を受けました。

- 事業者の名称
- 地域生活支援センターあぷろ
- 事業者の住所
- 白老町大町2丁目3-20
- 指定年月日
- 平成18年10月1日〜平成24年9月30日
- サービスの種類
- 共同生活介護・共同生活援助平成18年9月期では8ヶ所のグループホームに計32名の定員の認可を受けておりました。10月からは、共同生活介護・

社会福祉法人白老宏友会 (H18. 10. 1)
平成18年度 指定障がい福祉サービス 共同生活介護(ケアホーム)・共同生活援助(グループホーム)支援組織体制図



共同生活援助事業所「地域生活支援センターあぷろ」(一体型)で35名の利用者の支援を行っております。

新制度移行後に求められる事業運営とは、地方自治体との協働のもと、事業サービスの向上と専門性を損なわないように職員一同が努力し創意工夫を重ね、魅力ある暮らしの実現を支援していかねばならないと考えております。

ニセコでニミッコ



8/21〜23、8/23〜25の日程で二班に分かれ、社会見学旅行に行ってきました。行き先はニセコ。期待に胸を膨らませ、我々は愛泉園を出発しました。

一日目は、京極町の噴出し公園でおいしい水を飲み、噴水でマイナスイオンを吸収。次にミルク工房・チーズ工房でアイスをペロリ。そして宿泊先「ニセコグランドホテル」へ。

二日目は、とまりん館を見学。ゲームやアトラクションを楽しみ、科学の力に触れてきました。次に積丹神威岬にてウニ丼・いくら丼・海鮮丼・焼き魚定食の中から選択して食べました。なんて贅沢!! お腹もいっぱいになり、余市ニツカウニスキー工場へ。ウニスキーがどのようであるのか、また工場の歴史について学びウニスキーの香りにほろ酔い気分です。

そして最終日の三日目。真狩のフラワーセンターへ。そして大滝村のきのこ王国で昼食を食べました。お腹もいっぱいになって夢心地の中、バスは一路愛泉園へ。

まだまだ帰りたくない気持ちでしたが、待っている仲間の元へ。たくさんさんの思い出とたくさんのお土産。そしてお土産話を持って…。

この二泊三日の旅行では、利用者・職員共に、また一つ思い出を作ることができたのではないのでしょうか。



愛泉園

ゲゲゲの誰さん!?

日胆地方会利用者親睦レクリエーション(カラオケ)参加のためいつになく早起き。いざ伊達に出発!!

会場では各施設の方々から上手な歌声が続く。「お祭りなどで歌っているよ」と自信満々な方もいらつしやいました。

さあ愛泉園の出番、「ドラえもん」は手話を交えて楽しく披露。豪華なお弁当を食べていよいよ午後2部の始まり、愛泉園のメインパフォーマンス!! 「ゲゲゲの鬼太郎」。お馴染みのキャラクターに扮装しての登場である。盛大なる拍手を受け無事終了。

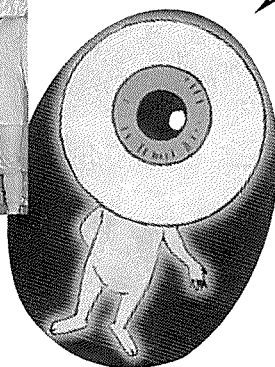
「パフォーマンス大賞・白老愛泉園!!」、「やったー!!」。Sさんは飛び上がって喜んでいました。審査委員長よりお褒めの言葉をいただき、職員も「衣装を作った甲斐があつたなあ(涙)」と一段落。

さあ来年もパワーアップして、皆さんを驚かせますよお。「えっっ期待なのじゃ!!」

どうじゃ、似とるじゃろ!



わし、おらん(泣)



ハロウィン企画

ななかまどでは10月17日より約2週間、秋のセールと題して、ハロウィン企画を実施しました。この企画は昨年からはじまり、季節に因んだ商品提供とイベント販売を通じてより一層地域との関わりを深めていくこと。また、少しでも多くの方に障がいを抱えた方へのご理解を頂けることを目的とし、始めたセール企画です。



～カボチャのロールケーキ～



～カボチャのシフォンケーキ～

生地とクリーム、そしてカボチャそのままのあまみを生かした一品です。

期間中、店内はハロウィン一色に装飾され、魔女の仮装をした利用者の方が販売したり、主にかぼちゃを材料に使ったハロウィン商品が店頭には並べられ盛り上がりを見せました。

商品は、昨年より販売されているハロウィンパイ、パンプキンパ

イ、パウンドケーキ、かぼちゃのクッキーシュー4品と、今回改めて新商品として企画された、かぼちゃのシフォンケーキとパンプキンロール全6品が期間中販売されました。

限定商品として販売された商品は、お客様からの評判も良く好調に売り出され、中には期間中何度も足を運んできてくれたお客様もいらつしやいました。

また、店頭で装飾されたおぼけかぼちゃや合計重量当てクイズを実施、当選者には景品を贈呈し、昨年同様、小鳩保育園の仮装行進時にはお菓子を配るなどのセールに合わせた催しも行いました。



今後の予定としては12月中旬に、クリスマス企画を実施する予定です。

ポプリ

フットベースボール

フロンティア交流試合

10月21日(土)スポーツ交流会と題して通所授産施設フロンティアとフットベースボールの対抗試合が行われました。参加者は主にスポーツサークルのメンバーから募り、計12名で参加しました。



ムの声援が飛び交う中、先取点は2回の表ポプリが先取。5回で1点差まで追い上げられるが6回で2点追加し引き離す。最後の最後まで試合は熱く盛り上がりを見せました。練習の成果もあり6対3とう結果でポプリチームが勝利し、トロフィーを手にすることができました。

～みごと大勝利!!～

試合終了後互いに厚い握手を交わし、ポプリからは事前を用意していたメッセージ付のクッキーをフロンティアの利用者の方一人ひとりに手渡し、記念に参加者全員で写真撮影を行いました。利用者の

当日は秋晴れの中、最高の交流会日和を迎えることができました。

ルール内容は、基本的な競技内容に則った形式で行われ、出場選手10名の最終6回の形式で試合は行われました。

両チームがクランド中央に整列し試合開始。序盤から互いのチー

一人ひとりの表情は達成感に満ち溢れ生き生きとしていました。今後もこのようなサークル活動や行事を通じて外部との交流を図っていく機会を設けていきたいと思えます。